

えべつの未来づくりミーティング

～ 江別地区自治会連絡協議会編 ～

令和4年7月12日（火） 江別市コミュニティセンター1階会議室

午後6時～午後8時10分

1 江別市の「強み」「弱み」は

・道外から江別市に転入してきた時、最初は「ずい分田舎だなあ」と思った。特にJR江別駅の周辺がさびれていて、空き家があり、そう感じた。しかし、住んでみると、自家用車に乗れば10分位行くと、スーパーマーケットが10か所ぐらいあり、パン屋が多く、乳製品も豊富だと感じている。札幌市にも隣接していて交通アクセスが便利だと思う。一方で、JR江別駅周辺の建物が老朽化している。再開発を検討すべきではないだろうか。



・強みは、札幌市に近いこと。その割に、家が建てやすい。適度に田舎で、ちょっと行けば田畑や牧場もある。ただ、弱点は、自家用車の利用が前提であること。バスを利用することを考えると、住む条件が悪くなると感じており、取り残される高齢者を危惧している。公共交通について、もっと考えないと、JR駅から離れたところに家を建てる子育て世代が一気に増えている中、この世代が定着すると、今よりもっとJR駅から離れたところが高齢化し、30～40年後に交通弱者が増えるという状況が来ると思う。



・全国に友人や親戚がいるが、結構、南海トラフによる地震の発生を恐れている人が多い。北海道も日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震で津波が来ると予測されているが、本州の知人の中には、できれば住んでいる土地を売って、津波被害が少ない地域に移りたいと思っている人も少なくない。そんな中、江別市は、大雪の被害はあるものの、災害の発生があまりない土地であることが強みではないだろうか。もっとアピールしても良いと思う。また、江別市は麦の里であり、東京都心のパン屋さんでも「北海道江別産」と書いてあるらしい。ただ、小麦（グルテン）が健康によくないというイメージが広がっていることが、将来的には心配である。除排雪については、除排雪事業者の高齢化が進んでおり、除排雪の技術を高めることは難しいと思う。雪は同じ時期に降るし、建設業の人口も減っているので、除排雪の担い手を増やすことも難しいと思う。発想を変えて「そこまで除排雪はできません」という考え方にし、そのことを理解してもらうことに、力を入れた方が良いのではないだろうか。昔に比べると、きれいに除雪していると思う。



・強みは、札幌市に近いこと。市域が細長い市なので、近い所と遠い所があるが、総じて、札幌市は通勤圏であり、ベッドタウンとして支持されている。緑が多く、大雨が来ても水害の心配が少ない地域になりつつある。緑や田畑が多く、新鮮な野菜が収穫されるので、子育て世代に評価されている。公共交通機関については、バスやJRを利用しようとする、バスは各社1時間に1便の場合もあり、不便を感じる。いずれ、運転免許証を返納したら、どうやって生活すれば良いのかと考えてしまう。それから、雪の問題。今は各自、個人的に排雪したり、業者に排雪を依頼しているが、高齢者や生活が苦しい方もいるので、ワンシーズンに何回か、排雪をしてもらえると有難い。

- ・弱みは、高齢化が進んで、年少人口が減っていること。税収が少ないので、できる事業が減っていくことになる。公共交通機関については、自宅からJR駅まで徒歩で20分かかるので、学生の頃はJR駅までバスを利用していたが、日中や夕方は便数が少なくて不便だった。また、観光入込客数が少ないことも、歳入を考えると、弱みだと思う。強みは、大学の数が多いことや、子育て世代の転入が多いこと。ただ、大学生が卒業後に市外に転出することが多いので、転出を防ぐことができれば、強みになるのではないかと思う。生活はしやすいと感じている。JR野幌駅周辺は店も多く、映画館もあり、適度に娯楽も楽しめる。観光地ではないことが、住みやすさの要素になっているかもしれない。

2 自治会活動の現状と課題について

- ・自治会会員の不足はないが、活動の後継者を考えると、どう継承していくかが課題。活動のバトタッチのタイミングを見計らっている。上手くバトタッチできれば、後継者ができる。あくまでもボランティアなので、自分もそうだが、人のため、地域のために何かしてあげたい、そしてその結果、自分も幸せになる、というマインドが必要。会員が自治会活動への理解を持ち、お互いに関心を持ってやっていくことが大事だと思う。
- ・自治会の組織率は高いが、高齢化が進んでいる。地域には若い人が転入してきているが、自治会活動を維持できるのか課題。任意参加なので、役員になることを強いることはできない。最近は就業年齢も高くなっており、役員をやってくれそうだなと思う人ほど、再雇用で働いている。各事業部長は1年持ち回り制だが、1回持ち回った後、どうするのが問題になっている。民生児童委員も同じである。



- ・高齢化が課題。若い世代も自治会に入って来ているが、仕事をしているので、役員のなり手が不足している。そこで、規約を改め、道路交通部を廃部して私道の除排雪を軽減するなど、役員の仕事を軽減化することにした。総会の回数を減らす工夫なども行っている。
- ・非加入者が多く、アパートが多い。最近できたアパートは、オートロックで、勧誘したくても難しい。不動産業者については、自治会活動に協力的な事業者と、そうでない事業者がある。アパートが今後も増えていくと思われる中、市も不動産業者に働きかけた方が良くはないだろうか。
- ・自治会役員の担い手が不足している。高齢化に加えて、住民の関心の低さが課題。市役所にも自治会に入るメリット、デメリットを尋ねてくる人が多い。任意加入ではあるが、非加入の人も、防犯灯の下を通るだろうし、自治会で除排雪された道を通ると思うので、自治会活動に関心を持ってもらいたい。

3 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・自分は、親やきょうだいの家族とも一緒に住んでおり、多世代・多子の環境だが、世の中はそうではない。産んでいる世帯は産んでいるが、2人目を産むことをやめてしまう世帯にとって、その原因、考えは何なのか。経済的な支援だけではなく、何か必要なのか。そこを分析することが必要なのではないだろうか。
- ・若い世代が多いが、学生は税金を納めていない場合が多い。納める歳になると卒業して転出してしまふ。また、産業がないので、固定資産税も少ない。若い世帯が納める税より、子育て支援にかけている予算の方が多いと思う。年齢構成のバランスを考えて、三世代ともに暮らしやすいまちづくりを進めてほしい。また、自分が江別市を選んだ理由は、自然が多いこと。緑や自然を壊さないでほしい。
- ・日本の人口が減ると、今後10年間で、15兆円規模の損失になると聞いている。経済規模が縮小すると、全てに影響するので、子育てや教育に力を入れて、10年、20年、30年の長い視点でまちづくりのあり方を考えてほしい。人口減少社会は、江別市だけ頑張っても好転することではないが、江別市だけでも頑張してほしいという気持ちがある。

- ・若い人は、野幌地区の市街地周辺に行ってしまう。空洞化した江別地区の市街地中心を、どう活性化していくかが問題。自分の子どもが育った後も、そのまま江別市内に定住するまちであってほしい。
- ・安全安心が一番大事だと思う。次に自然環境。今、心配しているのは、自治会内で、結婚しないまま実家で同居している40～50代が多く、このまま高齢化するのではと思っている。未婚対策が必要なのではないだろうか。
- ・市民アンケート調査結果で、公共交通や除排雪へのニーズが高いので、今住んでいる人の望むこととして、取り組むべきだと思う。また、今ある江別市の強みを生かしながら、子育て支援、教育、福祉などの推進により、住み良さを伸ばしていくことで、他自治体への流出を防ぎ定住につなげていくとともに、江別市への移住にもつなげていくことが大事だと思う。

